

布施の心

16

本多 克也
(略字も)
文・徳永 耕一

「フローグラスベルト」

ある日の部門長会議。

「このままでは会社は潰れるぞ。研究開発部は何か案はないのか」

中原常務の、叱責混じりの厳しい質問が飛んだ。

日本ダッジ社は、創立以来、方針や方向性がなかなか定まらず、経営は日を追つて悪化していたのだ。

私は、中原常務の質問を受けて、思い切って、今までの研究を踏まえた意見を述べた。

「今後、我が社はフローグラス製品に最大限、力を注ぐべきだと考えます」

そして、付け加えた。

「とりわけ、ベルト製品の成長性に着目すべきだと思います」

テフロンは、家庭用としては「テフロン加工鍋」がよく知られているが、工業用としては用途が広く、①機械用、②電気用、③粘着テープ用、④ベルト用など多くの用途がある。

私は、その中でとくにベルト用に着目した。

時代は大量生産時代に入っている。多くの製品が流れ作業で生産される。どの企業も、より短時間のうちに多くの製品を生産することが、企業存立のための至上命題だった。

その状況下で、ベルトは重要な役割を演じる。

そして、テフロンの持つ特性が、他の素材を圧倒する。

テフロンの特性は、テフロン鍋に代表されるように、高温に強い、くっつかない、薬品に強いなどだが、これらは



フローグラスベルト

2023年3月本多産業株式会社は
設立50周年を迎えました。

 本多産業株式会社

【本 社】神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3814
TEL:045-869-1133
【長崎工場】長崎県雲仙市吾妻町布江名677
TEL:0957-38-3520

商品の大量生産工程において必要不可欠の要素なのだ。

「テフロンをガラス織布に塗布したフローグラスこそ、我が社の救世主だ」私は、強く思った。

私の発言を聞いた中原常務の決断は早かった。直ちに「フローグラス開発部」が結成され、私はベルト開発チームのリーダーに任命された。

リーダー下命は光栄だったが、メンバー八名の顔を見渡すと、あちこちからかき集められた新人や戦力外通告を受けたような人たちばかりで、正直私は「まいったな」と思つた。しかし、その時、母の言葉が頭をよぎつた。

「人にはようせんばよ」

彼らは既成概念に染まっていない真っ白な人たちや、他に行くところがなく、最後の拠り所にしている人たち、いわゆる「普通の人ではない」人たちだ。私もだが……。

私は「皆、予想外の力を出すかも知れない。これもアドナ」と思い直して、八名で一致結束して開発を進めて行くことにした。

彼らには、私が過去に宮崎先生や中野先生や岡野さんにしてもらったように、できるだけ褒めて良い面を引き出そうとした。案の定、皆はそれに応えて、それぞれの持ち味を發揮して、予想以上に頑張ってくれた。

しかし、「フローグラス開発部」での数年間は、試行錯誤の連続で、苦労は尋常ではなかった。

製品開発を進めながら、パンフレットを作りしたり、ユーザーへや装置メーカーへの啓蒙活動を続けたりと、毎日帰りが遅くなるどころか、帰れない日も多かった。

しかし、ゼロックス、森永製菓など大手企業が少しづつテフロンベルトを採用してくれ始め、前方に明るい光が差してきたような気がした。